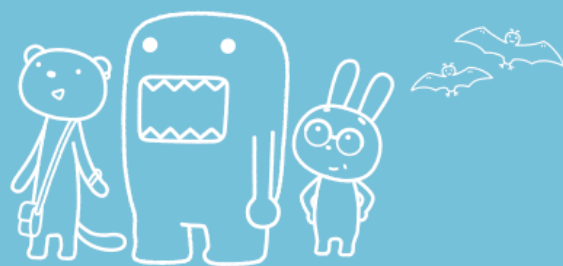


# NHK

## 月刊みなさまの声 2020年11月

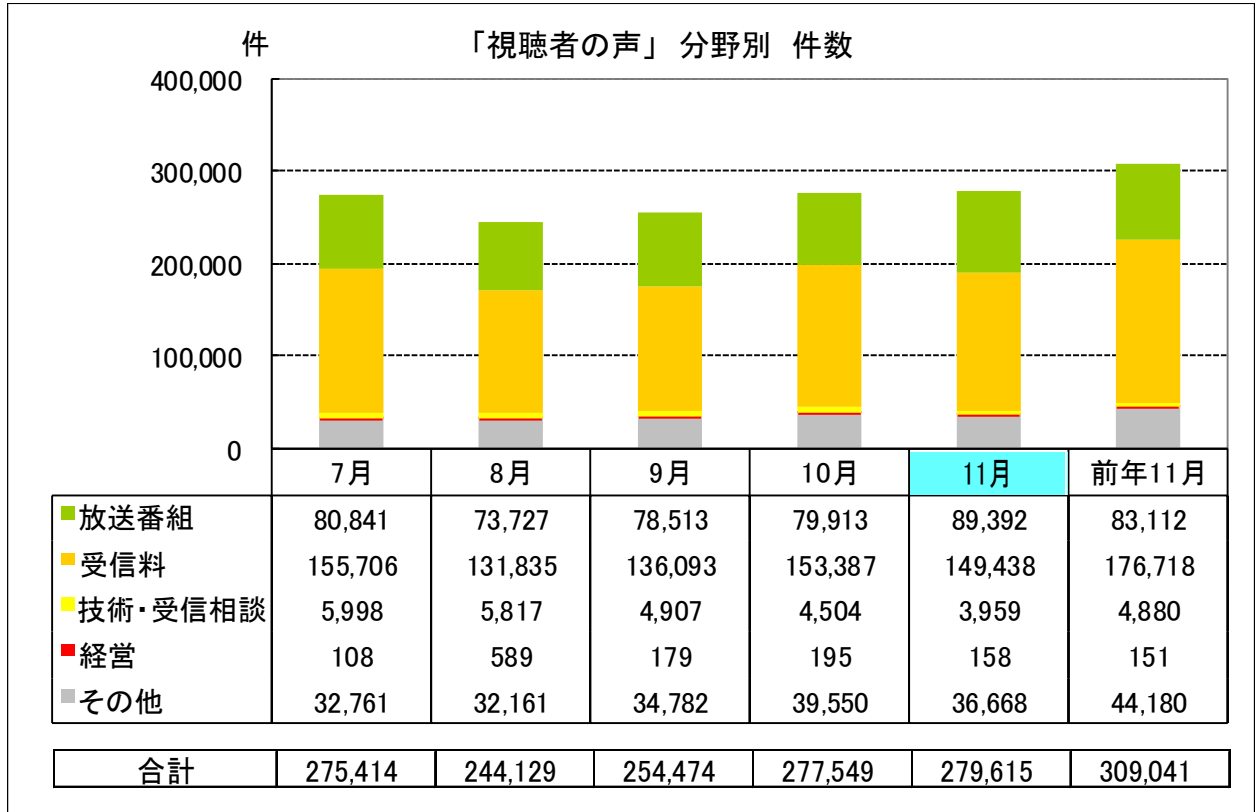


### <目次>

1. 視聴者の声の総数と内訳	2
2. 放送番組への声	3
3. 受信料への意見	4
4. 技術・受信相談への意見	4
5. 経営への意見	5
6. インターネット活用業務への声	5
7. 意見・要望への対応	6
8. ピックアップ	9

## 1. 視聴者の声の総数と内訳

11月にNHKに寄せられた視聴者の声の総数は27万9,615件で、前月より2,066件増加しましたが、前年同月より2万9,426件少なくなっています。



### ■ 視聴者の意見・要望への対応状況

11月に寄せられた視聴者の声のうち、意見や要望は4万3,054件で、このうち3万9,638件は、ふれあいセンターのオペレーターなど、意見を受け付けた一次窓口で対応を完了しました。残る3,416件は放送の該当部局、担当地域の営業部や受信相談窓口で回答や説明などの二次対応をしました。本部各部局や全国放送局に直接届いた意見・要望については、原則一次窓口で完了しています。なお、問い合わせについては、ふれあいセンターや該当部局、全国各放送局で速やかに回答などの対応をとりました。

	意見・要望	問い合わせ	その他	受付数	一次窓口で対応完了	該当部局で二次対応
ふれあいセンター（放送）	18,461	31,611	24,505	74,577	16,712	1,749
ふれあいセンター（営業）	1,605	102,897	2,621	107,123	1,072	533
ふれあいセンター（受信相談）	2,191	1,177	680	4,048	1,057	1,134
本部各部局	17,432	7,606	1,184	26,222	17,432	
全国各放送局	3,365	56,602	7,678	67,645	3,365	
合計	43,054	199,893	36,668	279,615	39,638	3,416

※ハートプラザ（放送センター）の受付件数はふれあいセンター（放送）に含まれます。

## 2. 放送番組への声

11月に放送や番組に寄せられた視聴者の声は8万9,392件でした。このうち番組に対する意見は2万847件で、好評と不評で分類すると好評意見が24%、厳しい意見は76%でした。

	9月	10月	11月	2019年11月
好評意見	26.9%	24.9%	23.6%	28.3%
厳しい意見	73.1%	75.1%	76.4%	71.7%

### ■11月 反響の多かった番組

アンという名の少女<最終回>や、未来少年コナン デジタルリマスター版に放送予定の問い合わせなどが多く寄せられたほか、11月で終了した連続テレビ小説「エール」にも多くの反響が届きました。

アンという名の少女<最終回>(8)「あなたがいてこそ我が家」(11/1)(総合)	4230件
未来少年コナン デジタルリマスター版(26)「大団円」(11/2)(総合)	1,051
【連続テレビ小説】エール 第120回「エール」(11/27)(総合、BSプレミアム、BS4K)	856
【連続テレビ小説】エール<最終回>「第24週」(11/28)(総合、BSプレミアム、BS4K)	271
SONGS OF TOKYO Festival2020 Part4(11/1)(NHKワールド JAPAN)	260
NHKスペシャル「ドラマ こもりびと」(11/22)(総合)	246
国会中継「参議院予算委員会質疑」(11/6)(総合、ラジオ第1)	229
国会中継「衆議院予算委員会質疑」参議院予算委員会質疑(11/25)(総合、ラジオ第1)	192

<11月に放送した番組以外の問い合わせ>

第71回NHK紅白歌合戦 5,547件

実感ドドド!「追憶の島へゆれる“歴史継承”」(10/16)(九州ブロック:総合) 183件

### ■11月 再放送希望の多かった番組

11月に視聴者から寄せられた再放送の問い合わせと要望は9,111件でした。要望の多かった10の番組は、以下のとおりです。このうち7本の番組が再放送されました。

★アンという名の少女<最終回>(8)「あなたがいてこそ我が家」(総合)	987件	
★未来少年コナン デジタルリマスター版(26)「大団円」(総合)	812	
鶴瓶の家族に乾杯「三浦春馬のほしいモノSP!大阪府能勢町ぶっつけ本番旅」(総合)	248	
プロフェッショナル 仕事の流儀 SMAPスペシャル“完全版”(BSプレミアム)	159	
★につぼん ぐるり えとこ「冬の奥琵琶湖 もてなし街道を行く」(総合)	118	
★NHKスペシャル「ドラマ こもりびと」(総合)	104	
【国際共同制作 特集ドラマ】太陽の子(総合、BS8K)	87	
★SONGS「森山直太郎 山崎育三郎」(総合)	86	
★【連続テレビ小説】エール 第120回「エール」(総合、BSプレミアム、BS4K)	86	
★NHKスペシャル「新型コロナ 全論文解説～AIで迫る いま知りたいこと～」(総合)	84	★再放送実施番組 (12月16日現在)

### 3. 受信料への意見

受信料に関して11月は、14万9,438件の意見や問い合わせが寄せられました。ふれあいセンター（営業）では、10万7,123件を受け付け、このうち、苦情を含む意見や要望は1,605件でした。一次窓口で対応を完了したのは1,072件（67%）で、533件（33%）については担当地域の営業部・センターが二次対応しました。

	事由	件数
スタッフ関係	訪問員等の対応、説明不十分等	380
	訪問日、訪問時間に対する不満	2
受信料制度	受信料制度への不満・不公平感	50
	料金体系・料額への不満	33
事務処理関係	事務手続き(割引・返金等)の遅れ等による苦情	79
番組サービス	「番組内容が悪い」等の不満	19
その他	訪問以外の営業活動への意見等	1,042
合計		1,605

### 4. 技術・受信相談への意見

技術・受信相談に関して11月は、3,959件の意見や問い合わせが寄せられました。このうちふれあいセンター（受信相談）および各放送局の受信相談窓口では3,390件を受け付けました。内訳は、受信不良の申し出が2,191件、受信方法やテレビのリモコンの操作方法などの技術相談が1,199件です。このうち受信不良の申し出については一次窓口で対応を完了したのが1,057件（48%）で、1,134件（52%）は訪問による二次対応で改善の指導や助言を行いました。技術相談についてはふれあいセンターや各放送局の受信相談窓口で対応しました。

事由	件数
受信不良	2,191
一次対応	1,057
個別受信設備不良	941
共同受信設備不良	74
建造物による受信障害	7
雑音障害	27
混信・難視聴など	8
二次対応	1,134
技術相談（受信方法などへの問い合わせ）	1,199
合計	3,390

## 5. 経営への意見

NHKの経営に関して11月は158件の意見や問い合わせが寄せられました。このうち、ふれあいセンター(放送)で受け付けた意見や問い合わせは74件でした。内訳は「公共放送」関連が21件で最も多く、「経営計画」関連が11件、「不祥事」関連が5件、「情報公開」関連が4件、「予算」関連が3件、「職員制度」関連が2件、「経営委員会」関連が1件、「その他」が27件です。

## 6. インターネット活用業務への声

放送・営業ふれあいセンターや全国の放送局に寄せられた視聴者の声のうち、インターネット活用業務に関するものは1万2,722件。今年度最も多かった先月10月より、やや減少しました。そのうち82%が「NHKプラス」についてで、問い合わせの内容としては、IDの登録方法や端末への入力方法に関するものが多く寄せられています。NHKプラス以外では、NHKオンラインや各番組のウェブページなどの「ホームページ」、NEWSWEBなどNHKプラス以外の「動画音声配信」に問い合わせが寄せられました。

## 7. 意見・要望への対応

### ■#こもりびとプロジェクト

かつては若者特有のものとされてきた「ひきこもり」。今では中高年にも広がり、その数は推定で100万人を超えるとみられ（内閣府調査）、多くの人にとって身近な問題となっています。そこでNHKは、部局横断でさまざまな角度からこの問題に取り組むプロジェクトを立ち上げました。「こもりびと」という言葉を使うことで、先入観なく「ひきこもり」について考えていただける機会を提供しました。



#### 【視聴者の声】

- 私は5年くらいひきこもっている。身寄りもなく、区役所に助けを求めたが、対応してもらえなかった。私のような中高年のひきこもりをどうすればいいのか、対策について取材して放送してほしい。（50代女性）
- 氷河期世代、“貧乏くじ世代”とも呼ばれる私たちの世代は当たり前の就職や結婚ができないまま40代、50代となり、絶望しつつある。この世代はチャンスがあれば自立していける人も多い。今からでも、自分が思い描く未来に近づける方法を知りたい。（40代女性）

プロジェクトにはNHKのさまざまな番組が集結し、「こもりびと」をテーマにテレビやラジオ、SNSなど多方面で展開しました。制作にあたっては本人や家族、支援者など、多様な視点を取り入れるよう心がけました。また、「#こもりびと」の特設サイトを開設し、関連記事や動画、本人や家族の声などを掲載しています。



NHKスペシャル ドラマ「こもりびと」  
(11/22・総合)



NHKスペシャル「ある、ひきこもりの死 扉の向こうの家族」(11/29・総合)



みんなでひきこもりラジオ  
(11/23・ラジオ第1)

#### <このほかの関連番組>

■ウワサの保護者会 わが子がひきこもったら (11/21・Eテレ) ■ETV特集「親のとなりが自分の居場所 ～小堀先生と親子の日々～」(11/21・Eテレ) ■きょうの健康 “ひきこもり” 総力特集「ひきこもり 実像に迫る」(11/23・Eテレ) ■あさイチ「“ひきこもり” 家族が…もしかして私も？」(11/25・総合) ■逆転人生「“人づき合いが苦手” から大逆転！新進気鋭のロボット開発者」(11/26・総合) ■ひきこもりからドームへ ネット時代の先駆者・まふまふ (11/27・総合) ■プロフェッショナル 仕事の流儀「人を癒やし、人に癒やされる ～ひきこもり支援・石川 清～」(11/29・総合) ■ETV特集「ひきこもり文学」(12/5・Eテレ) ■ハートネットTV ひきこもりVR 「親子対談」(12/8・Eテレ) ■クローズアップ現代+「“こもりびと” の声をあなたに～親と子をつなぐ～」(12/9・総合)



#### 【視聴者の声】

- わが家にも、不登校からやっと学校へ行き始めた高校生の息子がいる。見ながら涙がポロポロこぼれた。（50代女性）
- 自分が置かれた状況と同じように思えた。取材が難しいテーマだと思うが、ぜひ今後も放送を続けてほしい。（70代以上男性）
- 番組の内容は自分と重なった。光が当たらない人を助ける、こうした番組をもっと作ってほしい。（60代女性）
- 深く重いテーマだった。生きてさえいてくれたらいいとシンプルに考えさせない社会が許せない。息子たちを守るためにも、未来をいいものに変えていきたい。（30代女性）
- 社会のひずみを生んでいるのは“誰か”ではなく、自分なのかも、と考えさせられた。（50代性別不明）



## ■みんなでエール×青春応援

新型コロナウイルスの感染が全国的に拡大する中、さまざまなイベントや大会、コンクールの開催が中止となり、若者の活躍する舞台が失われました。そこでNHKは、イベントに代わる発表の場を創り出し、「青春応援」と題して、コロナ禍で頑張る若者たちにエールを送りました。

### ●きっかけは高校生から届いた手紙 「青年の主張」復活へ

#### 【開催を求める声】

- ・ 運動部は高校総体などが中止となり、文化部は大きなコンクールが中止となった。学校生活の青春の集大成である、最後の舞台がこんな形で幕を下ろしてしまうことになり、やりきれない気持ちでいっぱい。自分たちの気持ちを救うような番組を制作してほしい。



こうした声を受けて、NHKはかつて半世紀に渡って開催していた番組「青年の主張」を特別版として29日に復活。コロナ禍で青春を奪われた全国の若者8人が“魂の叫び”をぶつけ、相次ぐ採用中止でCAの夢がかなわなかった専門学校生や、活躍の場を失った応援団の大学生などの熱い思いをゲストが受け止めました。

#### 【ホームページやツイッターなどに寄せられた声】

- ・ 同世代、あるいはもっと若い方々が自分の考えをしっかりと整理して前に進んでいる姿を見て、勇気をもらった。
- ・ 参加者の主張に共感し、ずっと感情が揺さぶられて続いていた。ポロポロと流れる涙が止まらなくなるのは、久しぶりだった。

### ●「Nコン」中止 341校の投稿動画を公開

「NHK全国学校音楽コンクール（Nコン）」も今年中止となりました。合唱に青春をかけてきた若者たちに発表の場を提供しようと、課題曲を歌う動画を募集。特別番組で紹介するとともに、全国の341校から寄せられた動画をホームページで公開しています。



#### 【視聴者の声】

- ・ Nコンは全国の何万人の学生の青春そのもの。例年通りのホールでなくても、何かしらの形で参加したい。  
(19歳以下女性)
- ・ 毎年、出場していたNコンのステージがこんなに遠く感じるとは思わなかった。先輩と歌う舞台を作ってほしい。  
(19歳以下男性)

#### 【ホームページやツイッターなどに寄せられた声】

- ・ 中学生の時からNコンに参加していた娘が目指すものを失っていた時に、この企画が行われることになり、大きな支えとなった。合唱を好きな人だけでなく、大勢の人へのエールになったと思う。
- ・ 私は高校3年で、今年合唱部を引退した。受験勉強でつらい中、番組を見て、部活でのたくさんのことを思い出すことができた。例年通りのコンクールではなかったものの、こうしてみんなで一つになることができ、改めて合唱って素敵だなと感じた。
- ・ こんな時だからこそ形にできたものなのだと胸が熱くなり、皆さんの気持ちが真っ直ぐ伝わってきた。前向きに頑張っていこうと思える力をもらった。ありがとう。

このほか、「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト（ロボコン）」をオンラインで実施し、その模様を総合テレビで放送するなど、さまざまな形で「みんなでエール」プロジェクトを展開しています。

## ■誤記・誤読などの指摘への対応（11月）

視聴者からの指摘をもとに確認の結果、11月の放送でのテロップや誤読などのミス、事実関係の間違いは57件（10月は56件）、ホームページは22件（10月は20件）ありました。

## ◆放送 誤記・誤読

日付	メディア	番組名	種別	内容	対応
11/3	Eテレ	先人たちの底力 知恵泉(ちえいず)	テロップ	×日本 <b>書記</b> ○日本 <b>書紀</b>	再放送で修正
11/8	Eテレ	日曜美術館	コメント	テロップは「牡牛」で ナレは×「 <b>めうし</b> 」 ○「 <b>おうし</b> 」	再放送で修正
11/17	BS1	ATPファイナル ～ロンドン～	テロップ	アナウンサーと解説者の 名前のテロップが逆	再発防止に向け 情報共有
11/22	BS プレミアム	新・BS日本のうた	テロップ	赤とんぼの歌詞 × <b>追われて</b> ○ <b>負われて</b>	再放送で修正
11/22	Eテレ	将棋フォーカス	テロップ	× <b>平成</b> 62年 ○ <b>昭和</b> 62年	再放送とNHKプ ラス内で修正

## ◆放送 事実誤認

日付	メディア	番組名	種別	内容	対応
11/14	BS プレミアム	たけしの これがホントの ニッポン芸能史	コメント	クレージーキャッツで谷啓さんは × <b>トランペット</b> 奏者 ○ <b>トロンボーン</b> 奏者	再放送で修正
11/19	総合・BS1 BS4K	大相撲11月場所	画面	優勝争いの力士の 今後の対戦の画面で 成績に間違い	番組内でおわび
11/29	BS1	BS1スペシャル	コメント	× <b>少林寺拳法</b> ○ <b>少林拳</b>	再放送で修正

## ◆ホームページ

日付	番組名	種別	内容	対応
11/9	大科学実験	誤記	1000mの× <b>改訂</b> ○ <b>海底</b>	現場に指摘 修正
11/15	麒麟(きりん)がくる	誤記	ふりがなの付け方 × <b>覚怒法(かくじょうほう)</b> 親王 ○ <b>覚怒(かくじょ)</b> 法親王	現場に指摘 修正
11/26	そなえる防災	誤記	× <b>消化器</b> の使い方 ○ <b>消火器</b>	現場に指摘 修正



## 8. ピックアップ

### ■【連続テレビ小説】エール <本編120回、土曜ダイジェスト24回>

3月30日（月）～11月28日（土）

総合 前8：00～8：15

BSプレミアム・BS4K

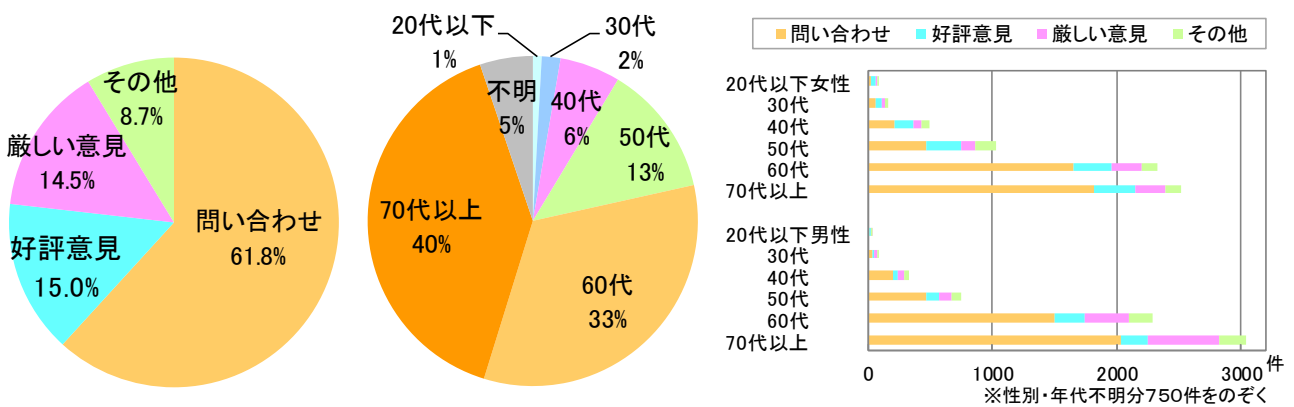
前7：30～7：45



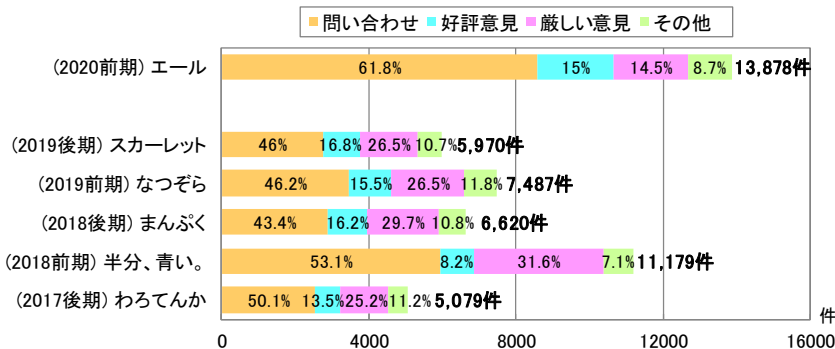
反響13, 878件 ※3月30日～11月29日で集計  
 (好評意見2, 084件、厳しい意見2, 014件、  
 その他の意見1, 205件、問い合わせ8, 575件)

「連続テレビ小説 エール」は、昭和を代表する作曲家・古関裕而さんをモデルに、激動の時代に音楽の力で人と人をつなぎ勇気づけた古山裕一（窪田正孝さん）と古山音（二階堂ふみさん）の夫婦の半生を紡いだ物語です。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、2か月半の再放送をはさんで放送期間を8か月間に延長、放送回数も当初予定から縮小されるなど異例づくめのシリーズとなりました。

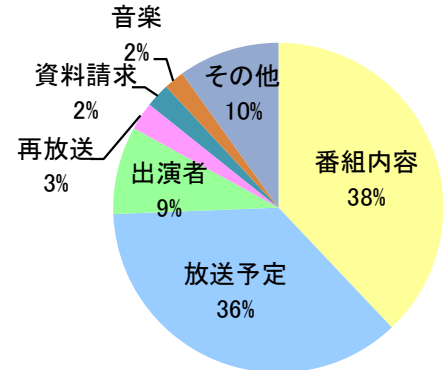
反響数は1万4,000件に迫り、過去の連続テレビ小説と比べても多くなっています。再放送期間中は放送予定への問い合わせが相継いでいましたが、9月中旬の再開以降は番組終盤にかけて好評意見が日を追って顕著になり、トータルでも厳しい意見の数を上回っています。



#### ●過去5作の連続テレビ小説との比較



#### ●受付内容の内訳



## 【主な内容】

## &lt;好評意見&gt;

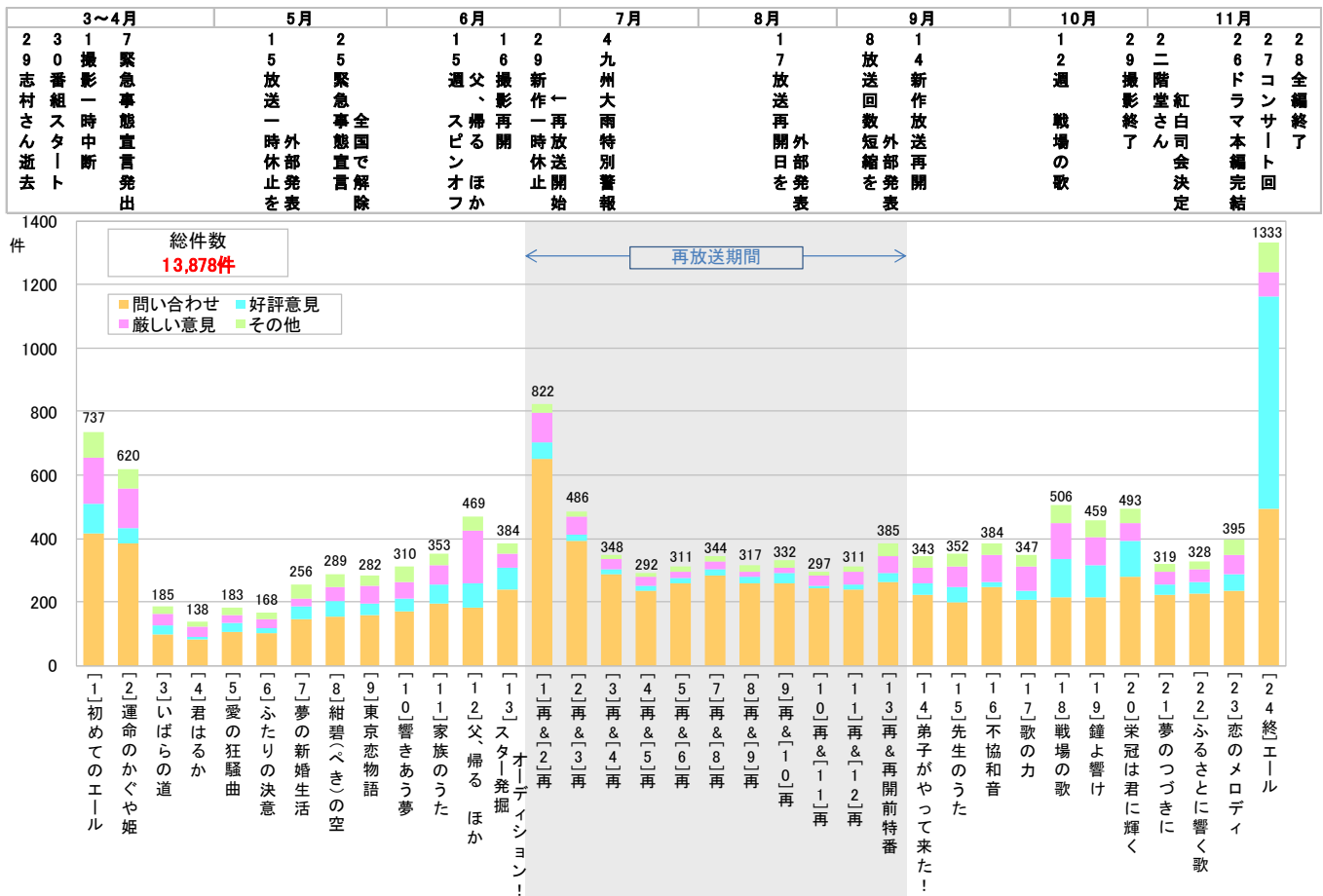
- 主人公の波乱万丈の生涯についてかなり踏み込んだシーンや重苦しい描写もあったが、チャレンジ精神にあふれた心に残るドラマだった。番組の途中中断やオリンピック延期を乗り越え、最終回までこぎつけたことは多くの視聴者に思いが通じたと思う。(60代男性)
- たくさんの元気をもらえた。夫婦とは助け合い支え合うもので、わが子を信じて背中を押すことも親の役目。友達は人生のかけがえのない財産。大切なことに改めて気付かされた。機会があれば、特別編などで新しい「エール」の物語も見せてほしい。(年代不明女性)
- ラストシーンは亡き妻と重なった。亡くなる4日前「散歩に行かない？」と言い出し、私は病院の長い廊下を妻の車いすを押した。ベンチに座り、たわいない会話をした。このコロナ禍、妻の十三回忌を執り行えないまま、遠くカンボジアの地から番組を見ている。(60代男性)
- 番組の中の歌は子どものころラジオで聞いたものが多くて、なつかしい祖母の顔も浮かんだ。音楽の力は本当にすごいと思った。自分は九州出身だが福島に長く住んでいて、震災後は東北の人の粘り強さを目の当たりにしてきた。福島県出身の古関裕而さんを取り上げてくれて本当によかった。(60代女性)
- 春からは精神的にきつい時期もあったが、「エール」でたくさん救われた。音楽と素直に向き合い、音楽とともに自然に生きた古関さんの人柄を、演じる窪田さんから感じる事ができた。(年代不明女性)
- 医療関係の仕事をしているが、世間が在宅シフトのなかでも仕事に向かう毎日、たくさんの優しい気持ちや、明るい気持ちをもたらした。窪田さんと二階堂さんが中心に立ちながら、周りの役者にも光を当てて輝かせる芝居の深みとすごみに夢中になった。「エール」は、私にとって忘れられない宝物のような作品だ。(50代女性)
- 山崎育三郎さん、薬師丸ひろ子さんら歌唱力のある出演者がそろい、歌のすばらしさを感じる事ができた。感染症対策などさまざまな苦勞が絶えないなかで、ドラマを提供してくれた制作スタッフにも感謝している。(70代以上女性)

## &lt;厳しい意見&gt;

- 古山裕一の生き方に感銘を受けていたので、ドラマの最後に俳優さんの素のこぼれを出さずに終わってほしかった。劇中の登場人物のまま終わることで、余韻を楽しむことができるのに、あいさつがその世界観を壊してしまい、残念だった。(50代女性)
  - コロナのために撮影が中断され、番組を120回にしたとのことだが、再開後は(この4月から変更された1週間5話ではなく)これまでのように土曜日を使って週6話にすれば、予定回数どおりに収められたのではないかと。(50代女性)
- ※放送回数が短縮されたことへの意見128件
- スケジュールの都合なのか、後半は駆け足で慌ただしかった。幼少期と青年期は長かったのに、すぐに何年後…と話が飛んでしまう。高齢の母は混乱してしまい、私が録画を見せて何度も母に説明をしなくてはならず、疲れてしまった。(50代女性)
  - 陸軍将校の場面に違和感を覚えた。当時、海軍は髪を伸ばす者もいたが、陸軍は一兵卒から大將まで全員丸刈りだった。髪を伸ばして威圧的な将校が出ていたが、これは全くありえない。時代考証には念を入れてほしい。(70代以上男性)

※このほか時代考証に関する指摘や意見202件

【視聴者意向の時系列推移についての分析】



○放送開始から一時休止まで（3月30日～6月28日）

放送開始前日に亡くなった志村けんさんの出演についての問い合わせや、新型コロナウイルス感染症や緊急事態宣言による番組の影響への意見が目立ちました。このほか、今期から始まった「土曜ダイジェスト回」や、第12週「父、帰る」にも多くの声が届きました。

【主な内容】

- 「エル」が志村けんさんの遺作となり、出演するシーンを見逃したくない気持ちで見た。私たち視聴者が見られなかったメイキング映像の中の志村さんも見てみたい。  
（50代女性）  
※未放送シーンは第119話で披露された
- 自粛が続き、うつ屈した日々の中で「エル」が癒やしになっている。撮影が中止され再開のめども立っていないと想像するが、予定どおりの話数を放送してほしい。  
（30代女性）
- 朝8時は長い生活習慣なので、土曜日だけがハイライトになると自分の中で話が途切れてしまう。「朝ドラおじさん」も必要性が感じられなかった。  
（70代以上男性）  
※土曜日がダイジェスト回に変わったことなどへの意見587件
- （第12週の）スピンオフ、内容はおもしろくても、本編の余韻が高まっているこのタイミングの放送には疑問を持った。これで本編が消られることがないことを希望する。また、音ちゃんのお父さんが死に装束で登場したが、着物の合わせが逆のような気がした。  
（50代女性）  
※スピンオフ回や衣装への意見189件

## ○放送一時休止から再開まで（6月29日～9月13日）

一時休止にともなう再放送が始まった6月29日の週は、1週間あたりの問い合わせ件数がピークに達しました。再放送には厳しい意見が数多く届いた一方で、この期間限定で実施された“出演者が演説する副音声放送”に好評意見が寄せられました。

## 【主な内容】

- ・ けさ見たら、最初の回の再放送だった。コロナ予防のために撮影が進んでいないようだが、NHKには視聴者に番組を届ける責任がある。早期の再開を望む。 (70代以上男性)  
※新作の再開希望1,687件
- ・ 再放送ならではの新しい発見もあり、副音声を聞きながら楽しんでいる。再開を心待ちにしているので、最後まで放送できるよう安全第一でがんばってほしい。 (40代女性)  
※副音声への意見、副音声の切り替え方法の問い合わせなど92件

## ○放送再開から最終回まで（9月14日～11月28日）

再開直後は、今後の放送予定への問い合わせが中心でしたが、第18週「戦場の歌」や第20週「栄冠は君に輝く」のころから好評意見が増えはじめました。かつてない困難に直面していた番組にエールを寄せてくれた視聴者の皆さんが、古関ソングや俳優たちの好演から今度はエールを受け取る。“エールの交換”は11月27日のカーテンコールコンサートで最高潮を迎えました。

## 【主な内容】

- ・ 朝ドラでこんなにも泣いたのは初めてだ。戦争シーンをどこまで具体的に表現するのか苦労もあったと思うが、伝わってくるものが大きかった。あえて主題歌を流さなかったことも戦争の悲惨さや無念さ、さまざまな思いが感じ取れた。 (40代女性)
- ・ 「エール」が大好きで、いつも次の話を楽しみに過ごしていたが、けさの戦闘の場面は残酷すぎたと思った。ここまでリアルに描かなくてもいいのではないかと感じた。 (30代女性)
- ・ 「栄冠は君に輝く」は、今年甲子園に出られなかった球児、オリンピックに出場できなかった選手、入学式や卒業式、修学旅行に行けなかった学生、お祝いやお別れの人生の節目に感謝を伝えられなかった人…今の私たちが、一丸となって前向きに生きていくための応援歌だと感じた。 (50代女性)
- ・ 在宅勤務が続き、久しぶりに朝ドラの全話を見ることができた。出演者の方々の演技力や歌唱力がすばらしく、日本でもここまで良質なエンターテインメントが作れるのだと感心した。最終回、ミュージカル出身の俳優さんたちの歌唱力に感動した。 (50代男性)
- ・ 最後にこんなすばらしい歌声を聞けるとは！どの歌にも体中の細胞が大喜びし、ワクワクが止まらなかった。演技、歌とも毎回楽しみでコロナ禍のなか本当にエールをもらえたと思う。裕一が戦争に協力した罪に苦しみ、乗り越える描き方もよかった。 (年代性別不明)
- ・ 本編の中の歌だけでは少ないと思っていたので、120話目の特別版もうれしいサプライズだった。「いつか大きな舞台上」という音さんと裕一さんの2人の夢も「長崎の鐘」で叶えることができてよかった。ことは多くの舞台・演劇が休演したため、出演者のスケジュールの都合がついたことで実現したコンサートならば、これも奇跡だと感じた。 (40代女性)  
※コンサートの感想、フルコーラス完全版希望など500件

■NHKスペシャル

「新型コロナ 全論文解説～AIで迫る  
いま知りたいこと～」

11月8日(日)

総合 後9:00～9:54

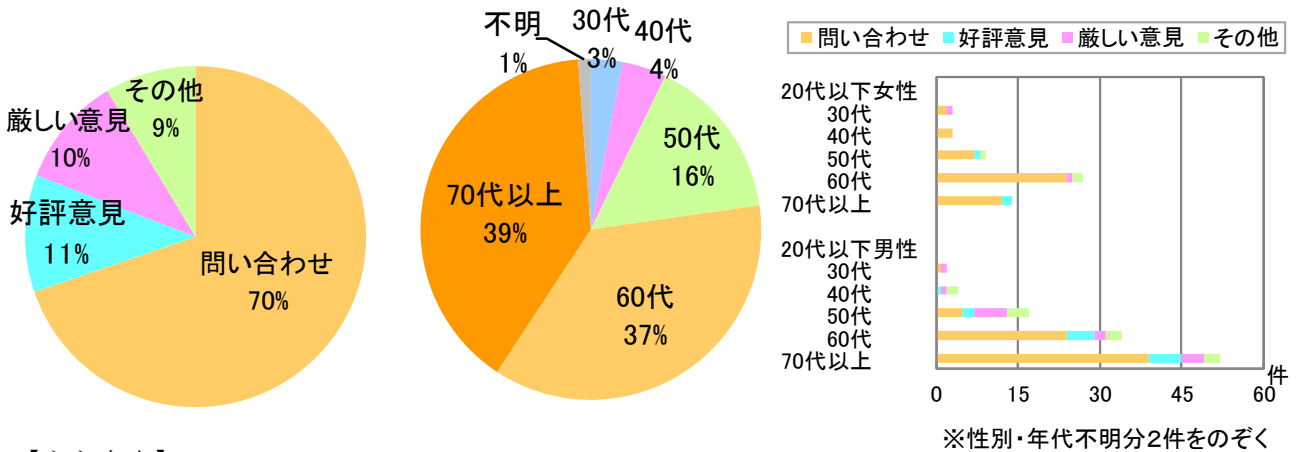


反響167件 ※2日～30日で集計

(好評意見18件、厳しい意見17件、

その他の意見15件、問い合わせ117件)

欧米で新型コロナウイルスの感染者が急増している中、日本はどうなるのか？ワクチンや薬はいつどのようにコロナ禍に終止符を打つのか？NHKが開発した、コロナ関連の全論文を学習した人工知能AIを使い、今後の予測のカギを握る世界の研究成果を徹底解説しました。研究者の知見も得ながら進めた番組に、今までと視点が違い興味深かったという声が寄せられました。一方で、出演者の笑いを交えた発言に、番組の姿勢を問う指摘もありました。



【主な内容】

<好評意見>

- 非常にすばらしい試みだったと思うし、いい番組だった。20万本もある論文をAIが読み込んだというが、すべて読み込ませるのにどれくらいの日数がかかったのか、またどのように読み込ませたのかも紹介してもらえるとうり参考になった。(60代男性)
- 今までとは視点が違う番組になっていた。今後も、AIを駆使した番組を期待したい。(60代男性)
- この新しい病気をめぐる状況が実際のところどうなのか、を示す番組でとても参考になった。今後もこうした切り口で追いつけてほしい。(70代以上女性)
- 膨大なデータを分かりやすく読み解いてくれて、役に立った。(60代男性)

<厳しい意見>

- 番組冒頭から楽しいナレーションで、司会のギャグで笑いを交えてスタートしたが、死者や後遺症で悩む被害者が起きている深刻な事態を扱う番組の姿勢としていかになものか。大震災や原発事故を検証する番組で、同じ作り方をするのだろうか。(50代男性)